

安全の手引き 学科別注意事項（数学科）

1 一般的心得

数学科では主として数学の学習や研究をするため、危険な機器を使用することはまれであるが、いくつかの注意を述べておく。

2 授業科目の実験実習における安全の心得

数学科の学生が学科内の施設を利用する機会は、主に以下の2点であろう。一つは、数学科の図書の利用。もう一つは、コンピュータの実習授業の受講。数学という学問は文献資料の充実が研究上必要である。そのために数学科では独自の図書室を持ち、そこで収集された文献を学生に開放して、教育へと役立てている。コンピュータについても情報処理教室による授業の他に、場合によっては、ノートパソコンを用いた講義やゼミが行われる。このように、数学科の実験実習の授業において、危険な機器によるものはないのが現状である。数学科では、コンピュータの利用が可能であるが、通常範囲での使用にとどまり、安全に実験や実習を受けることができる。

3 卒業研究、大学院研究における安全の心得

数学科の卒業研究、大学院研究においては、研究室によっては学生にパソコンを貸与し、実験や実習を行っている研究室がある。これも通常範囲での使用にとどまり、安全に実験や実習を遂行することができる。また、研究内容によっては、簡単な物理実験をする研究室もある。しかしこれも通常の講義室で実施可能な実験にとどまるため、安全に実験を実施することができる。

4 その他の注意事項

「安全」という言葉をより広く捉え、次の点に注意を促したい。著作権の問題である。数学科は膨大な文献資料を保有し、またコンピュータのソフトウェアも多数所有している。またインターネットを介して、さまざまな文献や画像を簡単に入手できる。これらは著作権の対象になるもので、不用意にダウンロード、複製、再配布をおこなうと法律に違反することもある。数学科では、ゼミナール、卒業研究、大学院における研究で学生が用いる文献、参考資料は購入できる範囲で学生人数分を購入するようにしている。また、ソフトウェアについても、使用する台数分を購入するシステムを遵守している。